

小学校：島崎 やよい（M2）須崎市立須崎小学校

中学校：鈴江 暢朗（M1）高知市立大津中学校

特 支：土居 一平（M2）高知県立山田特別支援学校



【発表内容】

◆島崎

高等学校の教員を目指していましたが、はじめは小学校の臨時教員になりました。小学校の免許を通信制の大学で取得しその後採用になりました。教育実践として「人権を視点に入れた学級経営」について、児童へのアンケートをもとに「合唱・合奏」の取り組みしたことをお話ししました。最後に、「15の春を笑顔で迎えるために～1/9の自覚と責任を」というタイトルで小学校教員として、担任する1年だけでなく、義務教育の9年を見通して、受け持った子どもたちが15の春(中学卒業・進路決定)を笑顔で迎えることができるために1/9の自覚と責任をもって職務にあたるのが大切ということを発表しました。

◆鈴江

大学4年間の学びや経験を大切にしてもらいたいという大きな柱で話をしました。教員不足が高知県そして全国的な課題となっている中で、一人一人の個性や経験

が教師としての魅力、強みであることを伝えようと、以下3つのポイントに結びつけて話しました。

- ・自身の教員を目指すきっかけ
- ・教員になってからの苦勞とそれを乗り越えられた原動力
- ・教師として大切にしてほしいこと

◆土居

特別支援学校の教員を目指したきっかけ、仕事の実際（校務分掌や研修、教育課程、時間割、実際の授業）について話しました。たくさんの仕事内容があるので教員同士で連携して仕事をしていくことが大切です。児童生徒観・教育観の視点の持ち方が自分の授業実践や思考、言動、態度に現れることを話しました。また、高等部の生徒を担当していることで、卒業後に仕事を頑張っている姿をみることで、自身の教育実践が生徒の成長につながるものだったかが実感できます。

「目の前の子どもの将来を拓く、教師でありたい。」と思っています。

【質疑応答】

Q「高校教員から小学校教員に志望を変えた動機を教えてください。」

Ans. 小学校の現場で働き始めて2年目で初めて学級担任をしました。学級経営や授業をすることが楽しくなりました。臨時教員のままでは、子どもたちと短い期間でお別れすることもあること、仕事がない時期もあることから小学校の教員の採用を目指すようになりました。

Q「今先生が「挑戦」していることは何ですか？」

Ans. 「教え方がうまい教師から学ばせ方がうまい教師になりたい」と思って日々挑戦しています。教職大学院では専科の数学の知識を深め授業力を高めたいと考えています。

Q「特別支援学校の免許を取得するコースにいます。他にも免許も取った方がいいでしょうか？」

Ans. いろいろな免許を取っておく方がいいと思います。基礎免許状に応じて、学校の中の担当（学部所属、学級主任等）が変わってくることもあります。